

統合医療はニューエージ思潮の実現

阿岸鉄三

東京女子医科大学名誉教授

統合医療については、統合医療という呼び方があっても、基本的理念についての納得できる説明は見当たらない。統合医療は、Integrative Medicine, Integrated Medicine の和訳であろうが、integration には”積分する”・”完全にする”の意味があり、統合は、単なる足し算でも融合でも、混合でもなく、積分すると次元が変わるように統合医療になると次元が変わるのであろう。統合の理解についてはいろいろな切り口があろうが、演者は、”科学的医療”と、”非科学的医療”を interdisciplinarily (学際的)ではなく、transdisciplinarily (学通的?) に、すなわち共通する視野にあって、貫通的に理解する立場と考えたい。非科学的医療とは、現代科学的思考・技術によっては、いまだに理解することができないが医療的效果がある手技・技法という意味である。そこでは、科学的とは、”科学的立場に立ったときに限定的に”という意味であり、さらに近年の思潮である”科学は、絶対的権威を喪失しつつある”ことをいっている。

現代の重要なキーワードのひとつは、ネットワークである。すべての網の目は、平等・対等な立場で結び合っていて、際限なく広がるシステムである。それは、例えば、カトリック教会 (Catholicism) における聖職者の階級制 (hierarchy) に対抗するもので、絶対的権威は存在しない。近年では、科学ばかりでなく、すべてのものが同じ憂き目に遭っていると指摘できるであろう。統合医療の最も皮相的な見方は、科学的医療と補完・代替・伝統医療などを組み合わせたものとするものであるが、20世紀後半の技術至上主義とも呼ばれた医療に、現代科学的には理解されない医療行為との統合をさす意味なのであろう。このような緩やかな網の目の連結でバリアフリー的・ボーダーレス的に広がるものの考え方は、ニューエージ思潮そのものであり、パソコンのインターネット普及が、その考えを慣れ親しませている。とすれば、パラダイムシフト paradigm shift というより、パラダイムエクспанション paradigm expansion と呼ぶのが相応しい。信仰の世界では、制度的宗教はむしろ忌避され、スピリチュアリティを中核にゆるやかに集う。同じ現象が、医療界に起こったのが統合医療と考えられる。